



きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper vol.18-**02** 2018 summer



「九十九島クルーズ」 撮影：水田 孝 氏

INDEX

- | | |
|--|--|
| <p>2 ● ごあいさつ 看護部長 井口 恵美子</p> <p>3 ● 健康教室の報告（5月・6月）とご案内（7～9月）</p> <p>● 臨床心理士 紹介</p> <p>4 ● 診療活動の現況 ―ペインクリニック麻酔科―</p> <p>6 ● 医療を支える人々</p> <p>● トピックス 移動図書をはじめました</p> | <p>7 ● 医療連携室より</p> <p>● 消化器病センターの運用変更について</p> <p>● 編集後記</p> <p>8 ● 外来診療担当表</p> |
|--|--|

〒857-8575 長崎県佐世保市島地町 10 番 17 号 TEL0956-22-5136 (代)

紹介受付専用 FAX (医療連携室) 0120-12-2067 HP <http://www.kkr.sasebo.nagasaki.jp>

急患室直通 FAX ☎0956-22-6052 (代) FAX0956-25-0662 ※休日・夜間のご連絡は、急患室直通的番号でご連絡下さい。



特定行為を行う看護師の養成と 院内認定看護師の育成を開始

看護部長 井口 恵美子

今年4月、医師15名、看護師13名（新人6名＋既卒7名）の新採用者を迎え新年度がスタートしました。

今春は、例年になく桜の開花と共に気候が安定し、長い期間桜の満開を愛でることが出来ました。演出家の萩本欽一さんがこんなことを言っています「新しいことを始める時に、初日が晴れだった番組は全て息の長い番組となったが、雨で始まった番組は全てだめになった。自然の力は運命をも左右する」と。今年採用の皆さんが、当院に明るい未来を運んできたに違いないと、期待を膨らませる今日このごろです。

さて、今年度の診療報酬・介護報酬改定ですが、「2025年問題」解決のための実質最後の同時改定と言われており、地域・在宅医療がますます推進され、病院は地域医療構想に則った舵取りが求められます。看護部としては、医師の負担軽減とチーム医療の推進そして看護の質向上のために、特定行為を行う看護師の養成と院内認定看護師の育成を開始する予定です。患者さんに医療を提供する最終実践者として、責任をもって質の高い温かな看護が提供できるようこれからも努力してまいりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

市民公開講座のご案内

日時：平成30年 **8月4日(土)** 14:00～

テーマ：超高齢化社会を見据えた呼吸器疾患対策

場所：佐世保共済病院 8階大講堂

講師：① **肺がん医療の進歩**

京都府立医科大学大学院 医学研究科 呼吸器内科学 教授 高山 浩一

② **急増が見込まれる肺炎対策は十分か？**

九州大学病院 呼吸器科 助教 原田 英治

③ **佐世保市における禁煙の取り組み**

佐世保市保健福祉部 保健医療政策課 医長 讃岐 理々

参加
無料

健康教室「学ぼう! 身近な医学」

地域医療従事者研修委員会

5月8日に5月教室「小児の低身長について」、6月12日に6月教室「本当は怖い熱中症」を開催しました。

5月教室は、小児科の岡副院長より、低身長で受診が勧められるパターン、睡眠や食事の大切さに

加えて、治療方法などの情報を提供しました。

6月教室は、ICUの高橋集中ケア認定看護師より、熱中症の症状と予防、家族が熱中症になった時の対処法などについてお話しました。

7月以降も、毎月第2火曜日14時から無料で開催します。身近な病気の予防や健康づくりについて、最新の話題を一緒に学んでみませんか？



【7月～9月の予定】

- 7月 食べて元気になろう
講師：看護師、管理栄養士
- 8月 お休み
- 9月 腎臓病の身近な話題
講師：腎臓内科医師

臨床心理士 紹介

はじめまして、臨床心理士・富崎です!

臨床心理士 富崎 朋子



この4月より、当院の臨床心理士として勤務しています。

これまでの臨床経験は、京都の大学病院小児科のプレイセラピーに始まり、精神科病院、スクールカウンセラー、専門学校講師、企業カウンセラー、保育カウンセラー等です。

心理の業務は、「心理検査」や「心理面接(カウンセリング)」が良く知られていますが、他にもさまざまな対応が可能です。「医

療チームへの参加」「カンファレンス参加」「リエゾン活動(院内での他部門との連携)」「コンサルテーション」「危機介入」「ご家族へのサポート」等など…。

本院には多くの診療科がありますので、治療の過程で心理職の関わりができそうな時には、どうぞ気軽にお声かけください。主治医の指示を受け、患者さんの病態に合う心理支

援を検討し、丁寧に対応を行っていきたいと思います。

心理検査は、「抑うつ」「不安」「認知機能」などの評価と対応を想定して、現在15種

類ほどを準備しています。今後、患者さんの対応の中で必要な検査があれば、順次追加していきたいと考えています。

「こんな対応も可能?」など、気軽にお尋ねいただき、臨床心理士を活用して下さい。どうぞ宜しくお願いします。





良好な日常を取り戻すために 多角的なアプローチで 慢性痛を緩和します

— ペインクリニック麻酔科 —

ペインクリニック麻酔科部長 境 徹也

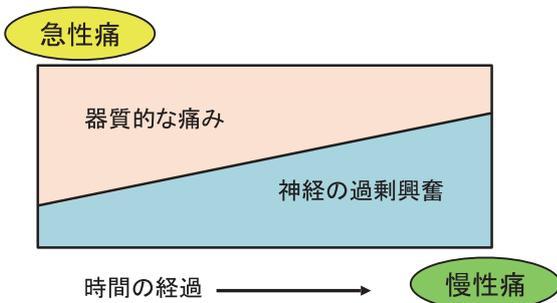
● 痛みとは～アラームとしての役割～

痛みとは、痛みを感じている本人しか分からない究極的に主観的な不快な感覚・感情です。痛みは辛いものですが、急に痛みを感じる時には身体に何かの異常が起こっていることを伝えるアラームとしての重要な役割があります。この不快なアラームによって、骨折や内臓異常などの原因が発見できるというメリットがあります。しかし、痛みの原因が明らかになった後にも、痛みが続いてしまうことがあります。

● 慢性痛とは～急性痛との違い～

国際疼痛学会は、慢性痛を「通常の経過あるいは創傷の治癒に要する妥当な時間を超えて持続する痛

図1 急性痛と慢性痛



み」と定義しており、一般的に痛みが3カ月以上持続すれば慢性痛といえます。急性痛は体の異常や損傷を知らせるアラームなので、その明確な原因に対する治療や鎮痛薬の投与で痛みは治まります。一方、慢性痛は急性痛のように目に見えるような明確な原

因（器質的要因）だけでなく、神経の過剰興奮や心理社会的要素（非器質的要因）が、その構成に関わっています（図1）。

● 難治性慢性痛～痛みの悪循環と慢性痛～

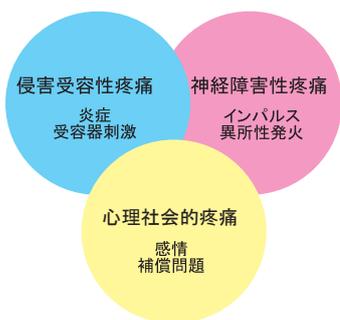
器質的要因よりも非器質的要因が大きくなってしまふと、鎮痛薬の効きが悪くなります。この状態の慢性痛は、損傷などの器質的要因が改善しているのに鳴り続けている不要なアラームです。一般的な治療の効果もあまり期待できないことから難治性慢性痛ということもできます。痛みを診る診療科であるペインクリニックには、このように他科で治療を行ったにもかかわらず痛みが残存する難治性慢性痛の患者さんが紹介されてきます。

痛みに対する不安や恐怖などの感情要素も、痛みからの逃避や過剰な警戒心を生じさせるために痛みの慢性化の原因になり得ます。また、体を動かさないことによる筋骨格系の廃用や萎縮に繋がり、更に痛みが増幅するという負のループ（痛みの悪循環）に陥る恐れがあります。

● 当科での治療方針～慢性痛へのアプローチ～

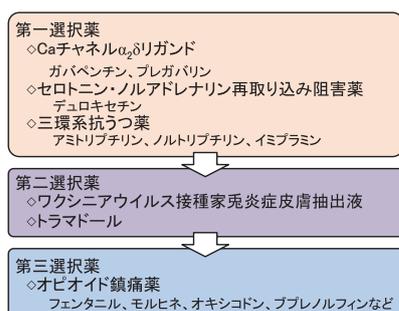
慢性痛は、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心理社会的疼痛の病態に分類されますが、それぞれ独立して存在しているわけでは無く、多くの場合重複しています（図2）。慢性痛は、その発症の基である疾患や痛みの構成要素によって、治療目的や最終目標が異なってきます。痛みの構成要素の評価を行い、それぞれに応じたアプローチを行うこ

図2 痛みの病態分類



とが治療の基本です。侵害受容性疼痛の多くは炎症であるため、抗炎症薬であるNSAIDsが有効です。長期間投与では、腎機能障害、胃粘膜障害などのリスクが高まるために、それらの副作用リスクが低いCOX-2選択的阻害薬やアセトアミノフェンの投与が推奨されます。神経障害性疼痛に対しては、NSAIDsやアセトアミノフェンは無効です。よって、図3に示す神経障害性疼痛薬物療法アルゴリズムが参考になります。

図3 神経障害性疼痛 薬物療法アルゴリズム



難治性慢性痛は器質的要因よりも非器質的要因がその痛みの構成要素として大きいため、痛みの無い状態にすることが難しいのは事実です。難治性慢性痛の患者さんは、長期間に渡り痛みに苦しんでいるため、医療者に対してその痛みを完全除去して貰うことを期待する傾向にあります。当然、痛みの軽減は目標の1つですが、それを第一目標にすべきではありません。当科では、治療による副作用をできる

表1 慢性痛の治療目的と最終目標

- ① 痛みの無い状態にすることは成し遂げられないとの認識を持って疼痛管理を最適化する
- ② 機能的な能力、身体的、精神的健康を向上させる*
- ③ 患者の生活の質を向上させる*
- ④ 有害転帰（副作用）を最小化する

*患者毎に特定された問題症状（不眠や活動性の低下など）に直接関連したものであるべきであり、患者が現実的に達成可能な内容（夜間覚醒回数が減少、家事が自分でなんとかできるなど）であることが好ましい。

だけ少なくしながら痛みの管理を行い、患者さんの生活の質や日常生活活動の向上などの機能回復を第一目標として診療を行っています（表1）。

慢性痛であっても、器質的要因が大きい症例には、薬物療法や神経ブロック等のインターベンショナル療法がある程度有効であり、その施行についての異論はありません。しかし、器質的要因に加えて心理社会的要因が重なり合い疼痛行動が強く前面に出現している難治性慢性痛の患者さんには、むしろ逆効果になることがあります。患者さんの痛みの訴えは、「痛み」そのものではなく、あくまで「疼痛行動」です。疼痛行動とは、痛みという辛い体験を周囲の人々に伝えるために引き起こされる行動であり、患者さんはついつい大袈裟なことをしてしまいがちです。オペラント条件付け認知行動理論では、疼痛行動は学習されるものであり、学習を強化するような報酬を過剰にあたえることは、疼痛行動を強化することに繋がってしまいます。従って、この疼痛行動に対する対処が慢性痛の治療の中で大きなポイントとなります。なぜなら、医療者の患者さんへの優しく接しすぎる対応や過剰な治療は、皮肉にも患者さんへの報酬となり疼痛行動の更なる強化に繋がりがちなからです。

よって、慢性痛の患者さんに対する認知行動療法的アプローチとして、①疼痛行動への対処として中立的態度をとること、②患者さんの中での「痛み」に対する認知を変える、つまり「どうしようもない」から「何とかなりそう」へと痛みに対する認知を変えることが重要になります。また、患者さんの疼痛行動を強化している因子を探り出すことも大切であり、患者さんの心理社会的背景に留意して治療を行っています。

●患者さんの紹介について～当科からのお願い～

当科へ紹介される場合には、患者さんに「ペインクリニックに行けば痛みがとれる」ではなく、「ペインクリニックは貴方の痛みをどのようにすれば楽になるか一緒に考えてくれる診療科です」と説明されるようにお願いします。また、当科は完全紹介予約制です。厳しいようですが、これは「いつでもどこでも医療者が全て診て治してくれる」という難治性疼痛患者さんに特有の痛み行動・認知を増幅させないためです。スムーズな慢性痛治療を開始するためにも、ご理解をよろしくお願いいたします。

薬剤科です

薬剤部長 川崎浩一

薬剤科は薬剤師13名(午前パート1名含む)、薬剤助手1名が勤務しています。当院では外来患者さんは原則院外処方になっているため、業務内容は調剤中心から病棟での活動に移ってきており、各病棟に担当薬剤師を配置し、入院患者さんの持参薬管理を始め、アレルギー歴や副作用歴の確認、薬の説明、その効果や副作用発現の有無の確認などを行っています。また、抗がん剤による治

療(がん化学療法)に対し薬剤師は抗がん剤注射の投与量・スケジュールなどが問題ないか確認後、専用の場所で無菌的に混合して払い出します。入院だけでなく外来で治療を受ける患者さんにも、必要時に薬の説明や副作用の確認などをさせて頂き、治療がスムーズに行えるようバックアップしています。がん化学療法以外にも、NST(栄養サポートチーム)やICT(感染対策チーム)など多職種のスタッフによるチームに認定資格を持った薬剤師が所属し、専門性を発揮することで患者さんの治療に貢献しています。



その他、調剤や注射薬調剤はもちろん、医薬品情報の収集・管理、院内製剤作製など薬剤科の業務は多岐に渡っています。

患者さんが安心して当院で治療を受けて頂けるよう取り組んでいますので、薬に関してお尋ねがあれば遠慮なくお声を掛けてください。



トピックス

移動図書をはじめました

平成30年6月よりブックワゴンでの移動図書を開始しました。入院中の患者さんに気分転換や本にふれあう時間を楽しんで頂くことが出来るようミステリー小説や

趣味に関するものなど様々なジャンルの本を用意しております。お部屋から動くのが難しい方にも楽しんでいただけるように当院スタッフがベッドサイドまでブック

ワゴンで巡回します。患者さんにたくさんご利用いただけるよう活動していきます。



- 【開催日】 毎月第1、第3金曜日の月2回
- 【貸出時間・場所】 14時～14時30分
6階北病棟のデイルームにて貸出
14時30分～
貸出希望者のもとへ巡回
- 【貸出期間】 1週間



平井産婦人科医院

〒857-0341 長崎県北松浦郡佐々町羽須和免780-5 TEL 0956-62-3903

院長 平井 雅直 先生

北松浦郡佐々町で産婦人科を開業しております平井雅直です。元々は、佐世保市天神町で昭和47年に父・平井健治が開業しておりましたが、昭和63年に佐々町へ転院しました。平成9年から私と2人で診療を行ってまいりましたが、平成16年からは私1人で診療を行っております。因みに、父は佐世保共済病院で1年間インターン研修を受けたと申しておりました。

婦人科一般、婦人科がん検診、妊娠・出産等、女性のヘルスケアに関わる診療を行っております。自治体より委託を受け予防接種も

行っておりますが、現在、子宮頸がんワクチン接種が滞った状態にあり、将来の子宮頸がんの抑制に不安を残す状態が続いていることを心配しています。

共済病院には以前より、婦人・妊産婦・新生児を紹介し引き受けて頂いておりましたが、近年、オープンシステムによる、帝王切開・分娩をお願いするようになりました。産婦人科・小児科の先生方には、お忙しい中いつも快く受けて頂き、大変感謝しております。

全国的に少子高齢化と言われるように、北松・平戸地区の分娩数も年々減少傾向にあります。また、産婦人科も減少しています。私が帰ってきた平成9年にはこの地区

に5件あった産婦人科も、現在は2件になりました。分娩数が減少したとは言え、より慎重な対応が求められる時代でもあります。貴院と連携をとりながら、微力ですが地域医療に貢献出来ればと考えております。

私事ですが、家族（母、息子）も佐世保共済病院にお世話になり、病院スタッフの方々の親切丁寧な対応に大変感謝しております。公私ともに、これからも宜しくお願いいたします。



院長 平井 雅直 先生

消化器病センターの運用変更について

内科と外科の共同診療になります

医療連携室課長 森 博紀

当院では6月より消化器病センターの運用を変更いたしました。診療体制につきましては、内科と外科の共同診療となりますので、今後の消化器疾患につきましては「消化器病センター」へご紹介い

ただきますようお願い致します。消化器内視鏡検査及び治療につきましては、上部・下部消化管の一般的な検査およびEMR治療は従来通り継続いたしますが、ESD治療や緊急的に内視鏡的処置が必

要な消化管出血等は対応困難となります。地域医療機関の皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。



編集 集記

「猛暑」「酷暑」よく目にしますが、佐世保市の2017年の最高気温ご存じですか？なんと37.9℃！地球温暖化の影響!? 年々上昇傾向で1947年のデータは33.0℃と70年間で+4.9℃も上昇しています！（気象庁ホームページより）このままでは日本は夏と冬だけになり四季がなくなってしまう”なんてことも…今のうちに環境に優しい生活（自転車通勤）、身近で出来るエコ（節電）からやってみましょう。

編集委員 栄喜 貴穂

外来診療担当表

平成30年7月1日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医長	金谷 晶子			●			●					腎臓疾患
	医員	山下 由希					●				●		腎臓疾患
	〃	橋本 康平	●						●				腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	医員	中尾 英智	●						●				循環器疾患
	非常勤医	田渕くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	熊埜御堂淳									●		循環器疾患
〃	眞島 涼平	●		●								循環器疾患	
呼吸器内科	非常勤医	古鉄 泰彬					●						呼吸器疾患
糖尿病内科	非常勤医	牟田 芳美						■	■				■：第2・4週のみ診察を行います
消化器内科	部長	河野 健次			●		●						肝臓疾患、糖尿病
	非常勤医	藤松 雅彦							■				消化器内科 ■：予約患者のみ診察を行います
	〃	橋口 慶一					※						消化器内科 ※：各週交代で診察を行います
	〃	田渕真惟子					※						消化器内科
総合内科	部長	小川 隆一			●			●		■			■：心身医療診察日
腫瘍内科	院長	井口 東郎					●						膵がん・胆道がん ■：再診予約のみ診察を行います
	医員	二尾 健太	●				●		■		●		1.消化器がん(食道がん・胃がん・大腸がん・膵がん・胆道がん・肝細胞がんなど) 2.乳がん、3.原発不明癌、4.肉腫(GIST・軟部肉腫)・その他
	〃	篠原 雄大	■		●				●				消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科
外科	副院長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科
	乳腺外科部長	原田 洋			●								消化器外科・乳腺外科・一般外科
	消化器外科部長	富崎 真一	●		●		●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	肝胆膵外科部長	丸山祐一郎	●						●		●		消化器外科・肝胆膵外科・一般外科
	医長	嬉野 浩樹			●						●		消化器外科・肝胆膵外科・一般外科
	医員	福田 純也					●		●		●		一般外科
	非常勤医	川畑 方博					●						肝胆膵外科・消化器外科・一般外科
	乳腺外来			●	●	●					●		
小児科	副院長	岡 尚記			●		●		※		●		小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般
部長	上玉利 彰	●		●				●					小児血液、小児がん、小児一般
アレルギーセンター長	合田 裕治	●		●		●		●		●			小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息
医長	村田 憲治	●				●		※		●			小児感染症、小児一般
アレルギーセンター副	濱崎 雄平							■	■				小児アレルギー疾患(■：第3週のみ診察を行います)
※：第1・5週(村田)第2・4週(岡)が診察を行います													
乳児健診					●								火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい
慢性外来								●					水曜 午後2時から診察開始
喘息外来										●			木曜 午後2時から診察開始
脳神経外科	部長	山川 勇造		■				■	●	■		■	脳神経外科一般
	医長	尾藤 昭次	●		●		●				●		■：午後1時30分から診療開始 午後4時までに受付を行って下さい
整形外科	顧問	萩原 博嗣	●										膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科(肩肘手)、足部外科、スポーツ障害
	医長	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科(肩肘手)、スポーツ障害
	〃	烏山 和之	●						●		●		膝・股関節外科、リウマチ
	〃	上田 幸輝	●		●		●						膝・肩関節疾患、腫瘍
	医員	伊東 孝浩	●				●		●				膝・股関節疾患
	〃	江崎 克樹					●		●				整形外科一般
〃	山田恵理奈			●						●		整形外科一般	
泌尿器科	部長	中村 貴生			●		●		●				泌尿器疾患
	医員	安田 拓司	■		●				●		●		■：第2・4週のみ診察を行います
	〃	近藤 翼	●				●				●		
産婦人科	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	医員	二尾 愛	■		●				●		●		●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	〃	井町 佑三	●		●		■				●		
	〃	田中 大智	●						●		■		
眼科	部長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術
	※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)												
耳鼻咽喉科	部長	大橋 充	●		●		●		●		●		頭頸部腫瘍、耳鼻咽喉科一般
	医員	樋口 良太	●		●		●		●		●		
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。									MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医長	梶原 寿浩											
	医員	近末 智雅											
麻酔科	診療部長	深野 拓			●		●		●		●		月～金午前：ペイン・緩和ケア・術前外来
	医長	松永 祥志	●		●		●		●		●		月～金午後：手術麻酔
	〃	木本 文子	●		●		●		●		●		
	非常勤医	別府 幸岐	●		●						●		
ベテリナリ科	部長	境 徹也	●		●		●		●		●		月～金午後は手術麻酔 受診等のお問合せは、直接外来までお電話下さい。
病理診断科	顧問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	●	※	●	※	●		●	※	●	※	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、口腔腫瘍、顎関節症
	医員	木附 智子	●	※	●	※	●		●	※	●	※	歯性感染症など(※：予約患者のみ診察を行います)
	〃	濱田 雄太	●	※	●	※	●		●	※	●	※	
健診センター	健診センター長	佐藤 浩信											※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155
	医長	原 敬一											